

* 2002年7月29日に米国で発表されたプレス・リリースの抄訳です。

[ご参考]

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ、

2002年第2四半期の業績を発表

- 経常利益は11%増加し、2億9,100万ドルに -

日本における変額年金保険の累計販売額は1,055億円を突破

[米国 コネチカット州ハートフォード 2002年7月29日]

国際的な大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービシズ・グループ (NYSE 略称: HIG、以下「ザ・ハートフォード」) は本日、2002年第2四半期 (2002年4~6月期、以下「当四半期」) の業績を発表し、経常利益が前年同期の2億6,200万ドルから11%増加し、2億9,100万ドルに達したことを明らかにしました。

当四半期の増益は、北米の損害保険事業が2桁の伸びを達成し、また生命保険事業が第1四半期と同水準の収益を維持したことによるものです。なお、経常利益には税引後の実現キャピタル・ゲイン (ロス) および会計方針の変更による累積的影響は含まれていません。

日本で事業を展開しているザ・ハートフォードの日本法人、ハートフォード生命保険株式会社では、当四半期における変額年金保険の販売額 (収入保険料ベース) が前年同期の119億円から155%増加し、303億円を突破しました。なお、2000年12月の営業開始以来、ハートフォード生命保険株式会社の2002年6月末現在の累計販売額は1,055億円を超えています。

ハートフォード・ライフの社長兼最高業務責任者であるトーマス A. マーラは次のように述べています。「ハートフォード生命保険株式会社は、2001年度の日本における変額年金保険の販売においてナンバーワンの実績を持っており、現在までの事業の進捗状況に大変満足しています。日本における変額年金保険への潜在的ニーズは極めて高く、今年10月からの銀行による変額年金保険の窓口販売開始によって、さらに販売が拡大することを期待しています。」

ザ・ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは、当四半期のザ・ハートフォードの業績について次のようにコメントしています。「当社は事業基盤の多様化によって不安定な市場局面を乗り切ると同時に、利益の成長機会をいち早く捉えることができました。当四半期の業績は、保険料率の上昇や大規模な災害事故の発生件数が低水準にとどまったこと、また特殊保険および再保険事業の強化策が結果として現われてきたことを反映しています。また、保険料の価格設定が周期的に変動する中で、現在は1980年代半ば以来

最も高水準に達していることが、当社の損害保険事業部門全体にプラスに働いています。一方、生命保険事業は、主として団体保険およびその他の投資商品が高水準の業績を達成した結果、株式市場の低迷にもかかわらず、僅かながらも経常利益が増加しています。

なお、営業権償却を行わないという新会計基準を2001年第2四半期にも適用していた場合、調整後の2001年第2四半期における経常利益は2億7,700万ドルとなるため、当四半期の経常利益は実質的に前年同期比で5%増加したことになります。

当四半期の純利益は、前年同期の2億2,600万ドルから18%減少し、1億8,500万ドルにとどまりました。2001年第2四半期の業績には、特定の投資有価証券に対し新会計基準が適用されたことにより配賦された1,100万ドル(税引後)の一度限りの費用が含まれています。

さらに、当四半期の1株当たり純利益(希薄化後)は、前年同期の0.94ドルから21%減少し、0.74ドルを計上しています。純利益には税引後の実現キャピタル・ロスが算入されていますが、当四半期における税引後の実現キャピタル・ロスは前年同期の2,500万ドルから1億600万ドルに増加しています。これは、ワールドコム社関連の7,100万ドル(税引後)の評価減をはじめ、主として通信セクターの有価証券の評価減に起因する1億5,200万ドル(税引後)の有価証券評価額の減損によるものです。ただし、上記の減損額は、有価証券の売却による4,600万ドルの税引後の実現キャピタル・ゲインによって部分的に相殺されています。

また、主として昨年9月11日の同時多発テロ事件後、資本増強の一環として700万株に上る株式公募を実施した結果、発行済株式数が増加し、当四半期の1株当たり純利益(希薄化後)に影響しています。

当四半期における生命保険事業の経常利益は、株式市場が低迷したにもかかわらず、僅かに増加して1億7,700万ドルに達しました。変額年金保険の販売額は23億ドルと、前年同期に対し9%縮小していますが、2002年第1四半期に比べると7%増加しています。また、北米地域で事業を展開する損害保険事業の経常利益も前年同期を18%上回る1億1,900万ドルを計上しています。

総資産および株主資本

2002年6月30日現在、ザ・ハートフォードの総資産は前年同期比を僅かに上回り1,796億ドルに達しています。また、運用資産残高(投資信託資産を含む)も1,959億ドルに増加しました。2002年6月30日現在、未実現損益を除く当社の1株当たり簿価は、前年同日の33.63ドルから6%増加し35.50ドルに達しています。

* * *

ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービスズ・グループ(NYSE略称:HIG、以下「ザ・ハートフォード」)は米国でもっとも由緒ある国際的な大手保険および金融サービス会社の一つであり、2001年の総収入は151億ドルを計上しています。2002年6月30日現在、

当社の総資産は 1,796 億ドル、株主資本は 97 億ドルに達しています。ザ・ハートフォードは、投資金融商品をはじめ、各種生命保険、団体生命保険、自動車保険、住宅保険、法人向け損害保険のほか、再保険などを提供しています。ハートフォード生命保険株式会社はザ・ハートフォードの日本法人です。

ザ・ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ (www.thehartford.com) にアクセスして The Hartford's Investor Financial Supplement のページをご覧ください。

このリリースに記載された一部のステートメントは、1995 年私募証券訴訟改正法 (Private Securities Litigation Reform Act of 1995) において定義されている予見的情報 (forward looking information) であるとみなす必要があります。当社は、投資家の皆様にこのような予見的ステートメントが将来の業績を保証するものではなく、実際の業績は大きく異なる可能性があることをお断りします。投資家の皆様は、当社の事業に係わるリスクと不確実性が将来の業績に影響を及ぼす可能性を考慮することが求められます。こうしたリスクと不確実性については、皆様が入手可能な文書、例えば当社の年次報告書、SEC に提出した文書等に記載されています。またこうした不確実性には、9 月に発生した同時多発テロ事件に伴う被害の実態や額が予測できないこと、その他新事実の発覚、再保険契約下での再保険会社の今後の対応、再保険料の上昇がもたらす影響、予想以上の損失を被る可能性、経済および経営環境が予想よりも悪化する可能性、金利または株式相場変動の可能性、予想以上に競争が激化する可能性、当社にとって不利な法律の制定や司法判断の可能性および自然災害が予想を超える頻度または深刻度で発生する可能性などが含まれます。なお、当社では、発表当日後における本リリースの内容更新については義務を負っていません。

< この件に関するお問い合わせ先 >

ハートフォード生命保険株式会社
社長室 課長
ブルース・エルズワース (日本語可)
電話: 03-5777-8083
bruce.j.ellsworth@hartfordlife.com

ギャビン・アンダーソン・アンド・カンパニー
笠原佳世 / 宮川真理
電話: 03 5404 0640
kkasahara@gajapan.co.jp / mmiyakawa@gajapan.co.jp